



# 上田女子 短期大学

通信

— vol.076 —  
2014.7.27

→ Ueda Women's  
Junior College ❀

## CONTENTS

- Special edition ▶ 新しい始まりに ..... 2-3
- Campus Life ▶ 各学科Topics ..... 4-5
- Campus Life ▶ 上田女子短大ライフ特集 ..... 6-7
- Information ▶ 進路サポート室情報 ..... 8





## 「教養」の大切さ

年齢、経験を重ねてこそ、益々その有難みが分かるもの



学長 小池 明

待望の夏休みです。充実の前期だった、或いはやり残し感がある等々様々でしょうが、大学生ならではの長い休暇を有意義に使って後期、即ち学年の仕上げに向け準備と英気を養って下さい。実習などで忙しいという人でも、授業がなく自由になる時間が多いこの機会を是非活用して下さい。時間は本来作り出すもの、私自身忙しい時の方が多くを実現できたと実感しています。だからこそ、この時期に教養に就いて自分なりに考えてみることを奨めたい。新入生への講義『学問への招待』でも例年、私は教養の重要性を強調するのですが、とすれば専門科目や資格に直結した勉強に追われて教養科目への関心が低くなっていないか危惧しています。この懸念は今や全国の大学や短大の学長が共有しているとすら言え、所謂リベラルアーツと専門教育を車の両輪と位置づけてどちらも不足無く学ぶことが大学という高等教育機関の本来の姿であり、そこに回帰すべきという考えが盛り返してきたのは実に心強いこと、これは皆さんを社会人として受け入れる今の日本社会、特に企業始め色々な組織としても異存のない処でしょう。要は地力がないとプロとして様々な状況に対応できないことを社会が再認識し出したのです。

本学は皆さんが資格取得を目ざすことを大いに奨励し、応援します。同時に、確固たる倫理観を持ち、豊かな教養を以て自らの人生のみならず周囲の人や社会に幸福をもたらす人間になって戴きたいと切実に願っています。勿論、教養は自らの仕事の質も高めてくれます。「教養ある仕事人」を目ざし、皆さんがこの休みを活用してその涵養に取り組まれることを期待しています。



### 教員の動静

幼児教育学科学科長 笹井 弘

この3月に、幼児教育学科の教授で理事の兎束淑美先生が本学を去られました。

先生にとっても創立40周年が一つの区切となり、去就を決断されたようです。短大で教鞭を執りながら附属幼稚園の園長も兼任された時期は、大変お忙しい思いをされたようですが、短大での音楽教育と保育者養成に厳しい目を持ってご指導いただきました。また、附属幼稚園の運営や先生方の養成にも多大なご尽力をされ、優しさ温かさの中に厳格な一面を備えた幼稚園教育を築かれました。

これからもお元気で地域の音楽活動を支援していただきたいと願っています。

そして4月より後任として、町田育弥教授をお迎えすることができました。町田先生は、作曲がご専門ですが、コンサート活動等でもご活躍です。加えて実家の幼稚園の理事長も兼任され、子ども達に深いご理解をお持ちです。本学での活躍を期待しています。



### 自分史上、最高の勉強を

総合文化学科学科長 大橋敦夫

受験勉強から解放され、大学生となって間もないころのことです。先輩からガツンと一言。

「今までの勉強が、勉強だと思っていたら大間違いですよ。」

その意味は、すぐにわかりました。とくに、上級生に交じて学ぶ専門科目の内容は、自分がいかに考えたかを説得力をもって語ることが大切で、答えが一つという性質のものではありませんでした。

世に出回る学生時代を回顧した文章は、どれだけ授業をサボったかといったことを、やや偽悪的に述べるものが多数です。謙譲の美德のなせるわざか、「私はこんながんばりました」といった内容には、あまりお目にかかりません。

今年度は、例年以上に、学ぶ意欲に満ちた新入生を迎えることができたように感じています。それぞれの目標に向けての精進に大いに期待しています。

## 平成26年度 新入生代表 あいさつ



総合文化学科  
上田東高校出身  
小林萌夏さん

例年になく大雪に見舞われた冬の終わりを告げる柔らかな春風を感じる季節となりました。今日のこの佳き日、私達新入生のためにこのような盛大な入学式を挙げていただき、ありがとうございます。本日より上田女子短期大学の学生として、責任と誇りある学生生活に努め、一般教養はもとより様々な知識や技能を身につけるために勉学に励んでいきたいと思ひます。

今現在、私達を取り巻く社会状況は決して明るいものとは言えません。東日本大震災の復興も途半ばですが、就職難や消費税増税など、私達にしている出来事も多くあります。そのような社会状況に負けることなく、立派に社会で活躍できる大人になるためには、これから始まる二年間の学生生活がとて大きく関係してくると思ひます。高校の頃から社会に出る準備を進めてきた私達ではありますが、まだまだ未熟です。卒業後は多くの人が一人の大人として社会に出ていきます。そのために勉学だけでなく、地域や人との関わりといった机上の学習のみでは身につ

かない力を養い、今、社会で活躍なさっている先輩方に負けない大人になれるよう、自分を磨いていきたいと思ひます。

理事長先生、学長先生をはじめとする諸先生方、厳しいご指導とご鞭撻のほど、よろしくお願ひいたします。

私は医療事務と図書館司書の分野に強い興味を持っており、将来は地域の方々と関わる仕事がしたいと考えております。どちらの分野に進んでも、顔と名前を覚えてもらい、時には様々な話をしたりもできる身近な存在になるのが目標です。

新入生一同、これまでお世話になった方々へ感謝の気持ちを忘れず、それぞれの目標に向かって上田女子短期大学の学生としての務めを果たし、実りある学生生活を送っていくことを約束します。

## 平成26年度特待生紹介



幼児教育学科2年  
高田商業高校出身  
佐藤 桃さん

昨年、特待生として入学させていただき、早1年が過ぎました。入学当時は学習の大変さも、短大生活自体もまったくわかっていませんでしたが、自分なりに一生懸命に勉強をしてきました。

2年生に進学し、今年も授業料を免除していただき、大変感謝しています。自覚を強く持ち、保育士になる夢に向かって、毎日の努力を欠かさずにご過ごしていきたいと思ひます。自分の目指す「保育者」の姿を思い描きながら、レベルアップをしていきたいと考えています。



幼児教育学科1年  
松本美須ヶ丘高校出身  
竹内 美貴さん

特待生試験に合格したときには、気持ちが引き締まりました。

幼児教育学科に入学してからは、保育士の夢をかなえるために、前向きに授業に臨むことができており、とても楽しい毎日です。授業は自分の好きなことが中心なので、毎回興味津々。これからも、しっかり学んでいこうと思ひます。また、卒業までには、幼児教育だけでなく介護の資格もとれたいいなと思ひます。

## 同窓生優遇措置



娘：幼児教育学科1年  
諏訪実業高校出身  
小池あやさん  
母：あゆみさん

あやさん「小さい頃からなかった保育士ですが、経済的なこともあり、母がこの卒業生だったため、入学金を免除していただくことができました。改めて保育士が具体的に見えてきました。母にはまだ内緒にしていますが、みんなに支えられここまで来たので、絶対に保育士になります。」

お母様「私自身、短大時代の思い出は楽しい物ばかりでしたので、娘が進学しても安心できると思ひました。学校の雰囲気、先生の教育熱心さは、今も変わっていないようで安心しました。」



姉：幼児教育学科2年  
上田千曲高校出身  
関田光夏さん  
妹：総合文化学科1年  
上田西高校出身  
関田風香さん

光夏さん「同窓生優遇措置制度は妹が入学する際に知りました。私たちは年子で妹は双子です。もう一人の妹も他の学校に行っているため、金銭面で両親は大変だと思います。好きなことをさせてもらった分、就職して両親に返したいと思ひます。」

風香さん「この制度で合格したとき、両親はとても喜んでくれました。目標は医療事務の職につくこと、図書館司書の資格をとることです。それが家族への恩返しになったいいなと思ひます。」

# 幼児教育学科Topics

## 附属幼稚園でのプレ実習



入学後、初めて子どもたちと触れ合う「プレ実習」が実施されました。このプレ実習は資格取得に必要な教育実習や保育実習の感覚を養うため設定されています。この日のために、学生は自己紹介や手遊びの練習を積んで実習に臨みました。子どもの反応はさまざまですが、よい経験になったことでしょう。



幼児教育学科1年  
上田東高校出身  
田中 伽歩さん

### 大きな経験になりました

最初は緊張していましたが、私が差し出した手を子どもが握ってくれたり、一緒に遊んだりしているうちにだんだん気持ちがほぐれていきました。

先生方は子どもたちはもちろん、私たちにも細かく心配りしてくださっていることがわかる場面がたくさんあり、とても勉強になりました。今後の学びにこの経験をいかして生きたいです。



幼児教育学科1年  
高田商業高校出身  
渡邊 絵梨香さん

### プレ実習で気づいたこと

プレ実習の前は子どもたちと触れ合うのを楽しみにしていただけでしたが、実習を終えてみると、考えさせられることがたくさんありました。先生方の子どもたちへの対応や、何気ない会話の中にも配慮がされていることがわかってきました。どんなときにも笑顔でいられる先生になりたいと思います。

## どんぐり広場



前期5回のどんぐり広場が、「保育と子育て支援」演習の受講学生（今年度26名）がスタッフとなって開催されました。今年から、来場した親子を対象とした学生によるあそびの企画もはじまりました。マラカス作りや新聞紙を使ったあそび、スタンプで紫陽花の絵を描く企画など、親子で楽しむ姿が見られました。

### 学生企画

## スタンプあそびであじさいを描こう!

- 幼児教育学科2年  
井出 はる奈さん（野沢南高校出身）  
木内 里香さん（小諸商業高校出身）
- 栗林 夏未さん（中野西高校出身）  
中村 未玖さん（塩尻志学館高校出身）  
渡辺 菜央さん（新井高校出身）

どんぐり広場は、未就園児と保護者と一緒に活動を行うとても貴重な体験です。子どもの発達段階に合わせ、実際に使うスタンプにも使いやすいよう工夫を凝らしました。子どもたちの楽しみ方はそれぞれで、バラエティに富む作品が出来上がりました。笑顔の溢れる親子の関わりを見ることができ、よかったです。



## リカレント教育講座

### ホームカミングデー



社会福祉法人 極楽寺愛育会  
みのり保育園  
園長 高橋比呂美先生

幼児教育学科では毎年その春の卒業生を対象に「ホームカミングデー」を開催しています。4月から社会人としての第一歩を踏み出した卒業生が、学生生活との違いに戸惑いを感じ始めているこの時期に、久しぶりに仲間や先生に会うことで悩みを解消し次へのパワーを得ることを目的としています。

今年は6月15日(日)に開催。それに併せてリカレント教育講座も行いました。

リカレント教育講座では上田市にあるみのり保育園の園長で、本学の卒業生でもいらっしゃる高橋比呂美先生をお招きし「誇りあるこの仕事を同じ想いの仲間とともに」と題してご講演をいただきました。

先生は「子どもたちの笑顔をもたらすには、自分が頑張らないと笑顔を引き出せない。子どもたちの笑顔がたくさんになるように、皆さんも頑張ってくださいね」と後輩たちにエールを贈ってくださいました。



# 総合文化学科Topics

## 総合文化研究所大会 信州方言フェスタ



7月12日(土)信州方言のお祭りであると同時に、信州で行う方言のお祭りをコンセプトに標記の大会が開催されました。

信州方言の研究で著名な出野憲司氏(伊那西高校校長)の講演に続いて、本学学生の有志がステージへ。方言をまじえたふるさとの紹介、出身地域の方で語る「桃太郎」、中国語方言の聞き比べを披露。さらには、演劇サークルが方言ショートショート等を熱演。最後は、会場全体で「故郷」を合唱しました。



総合文化学科2年  
伊那西高校出身  
青木 南奈さん

### 方言を使ったショート劇「再会」の台本を担当して

この学校に入学した当初、南信出身の私は周りの人が何を言っているかわからず戸惑うことが多くありました。今回その経験を活かし、方言を使ったショート劇「再会」を書き上演しました。「信州方言フェスタ」を通し、方言には地域の温かさがあり、その人らしさにもかかわっていることを学びました。



総合文化学科1年  
八海高校出身  
佐藤 さくらさん

### 新潟の方言で朗読しました

信州方言フェスタでは、新潟の方言での朗読「桃太郎」と、出身地南魚沼を紹介しました。むかしむかしで始まる昔話も新潟では「あったてんがな(あったということだ)」から始まります。上田での生活は、日常の会話は基本的には通じるのですが、互いへえっ!という瞬間があり、言葉ってこんなに違うんだと日々実感しています。

## 社会人として必要とされる女性教育

総合文化学科では、社会人基礎力の向上を目指して教養教育に力を入れています。特に、女子大学の強みを生かした女子教育は、どのような職業でも応用できる教養を身に付けられる科目が揃っています。

例えば、本学のお茶室「信養庵」で行う日本文化を体験的に学ぶ茶道の授業、招かれた際のマナーや日本古来の慣習、接客技術など幅広い知識を得ることができ、プライダルの授業などが特徴的です。



### 講義 テーブルコーディネート



増田 榮美准教授

この授業では、婚礼におけるテーブルコーディネートを中心に学びます。さらに、接客マナーや話術、ビジネスマナーも含め接客業

に必要なスキルを修得します。その中で職業教育を含め、短期大学という高等教育機関ならではの、教養を身につけていきます。

また、最高のサービスをするのならば、最高のゲスト経験を持つていなければいけないとも考えています。この授業をととして、そのような機会を学生たちに経験してもらいたいと思っています。



総合文化学科2年  
東御清翔高校出身  
池田 杏那さん

#### 「テーブルコーディネート」を受講して

実際に婚礼会場のセッティングを行いました。お皿の運び方、カトラリーのセットの仕方など、実践してみて初めてわかることがたくさんあり、大変勉強になりました。また、同時にテーブルマナーも教えていただき、とても有意義でした。

### 講義 茶道(裏千家)



宮下 宗薫先生

日本の伝統文化である茶道。その茶道を通じて、おじぎの仕方、立ち居振舞、座り方や姿勢、お箸の使い方など、最低限知っておきたい

礼儀作法も併せて体験的に学んでいただいています。お勤めに出たとき、挨拶がきちんとできるというのはとても好感が持たれるものです。

礼儀とは相手を気持ちよくするものです。さらに季節の移り変わりや感謝の気持ち、おもてなしの心、輪をもって協調性を養うなど、この授業を通じて汲み取っていただければと思っています。



総合文化学科2年  
赤穂高校出身  
春日 美沙さん

#### 知らなかった作法をたくさん知ることができました

まだ始めたばかりですが、学ぶことがたくさんあります。先生に一つひとつ教えていただいている作法は、日常生活だけでなく、就職活動や社会に出てからもきっと役に立つと思います。



## 快適で安心な 紫苑寮での生活

幼児教育学科2年 飯山高校出身  
小林 麻奈美さん(寮長)

幼児教育学科2年 柏崎総合高校出身  
渡辺 佳奈さん(副寮長)

総合文化学科2年 岡山学芸館高校出身  
樋口 萌さん

幼児教育学科1年 高田北城高校出身  
武藤 未咲さん

幼児教育学科1年 松商学園高校出身  
諏佐 朱里さん

総合文化学科1年 中野立志館高校出身  
廣瀬 いくみさん

—今日は、第一学生寮のみなさんに、寮生活のことについていろいろお聞きします。第一学生寮には何人入寮しているのですか？

●小林さん／全員で61人が入寮しています。2人で1部屋です。

—寮生活で楽しいことを教えてください。

●小林さん／友達が周りにたくさんいることです。入学したばかりのころ、なんとなく寂しいなと思っていましたが、すぐに友達ができ、みんなでワイワイ騒いだりして、楽しく過ごすことができました。

●渡辺さん／私はみんなに誕生日を祝ってもらえたことがすごくうれしかったです！自由に使える談話室があるので、誕生日のお祝いだけでなく、みんなでご飯を食べたり、タコ焼きパーティーをしたりしています。もちろん、勉強もしていますよ。

●樋口さん／みんなで企画する、寮のイベントも楽しいですよ。例えば一年生の歓迎会やクリスマス会などがあります。みんなが仲良くなるきっかけにもなっていますね。歓迎会では、体育館を借りて運動会や障害物リレーなどをしました。

●武藤さん／寮では、先輩方がちょっとした事を教えてくださったり、テストのときにアドバイスをもらえたりするのがいいです。短大に入って、さびしい思いをしたことがないのも寮生活のおかげ。ファーストコンタクトが取りやすいです。

●諏佐さん／私は家に帰らない休日に、一年生同士でご飯を作って一緒に食べたりするのが楽しいです。

—寮生活をしてよかったなと思ったことを聞かせてください。

●小林さん／学校の敷地内にあるので、朝寝坊しても走れば間に合うことです(笑)私は幼児教育学科なのですが、授業で作品を作るとか、実習の準備で計画を立てたり教材を作ったりということが時々あります。考えることがたくさんあって、一人だとさきと行き詰ってしまうだろうなあと感じますが、ありがたいことに寮には目指す方向が同じ仲間がいっぱいいて、いろいろな意見も聴けるし、お互いに助け合ったりしていますよ。

●渡辺さん／寮に入ったことで、集団生活の決まりを守ることを意識するようになりました。寮に入ったことで生活が充実したと思います。

●廣瀬さん／私もそう思います。寮にはいろいろ決まりがあり、最初は戸惑うこともありました。でも、一人暮らしだったら私の場合生活がゆるんでしまうと思いますので、逆に今はそういうルールがあってよかったなと思います。

●樋口さん／私は総合文化学科に所属していますが、普通に学校生活をしているだけだと、他の学科の人とかかわることがほとんどありません。寮では別

の学科の人とかかわれて、とても友達が増えました。いろいろな悩み事の相談もでき、話も聞けて楽しいです。それに、周りで頑張っている友達を見て自分も頑張ろうと励みになるところがいいところですよ。

●諏佐さん／私も同じです。何か困ったことがあったときに、すぐに友達に相談したり話し合うことができるところがいいなと思います。

学年も学科も様々な学生61名が、ルールを守りながら楽しく充実したキャンパスライフを送っています。2年間の共同生活は「家族」のように深い絆を結び、卒業旅行に行く学年もある程です。第2の学びの場、それが「寮」なんですね！



## 第二学生寮TSUZUKI



総合文化学科1年  
飯田風越高校出身  
廣川 麻衣さん

第二学生寮は下之郷駅近くにあつて、学校へは自転車です。歩いて15分くらいで行けますよ。セキュリティがしっかりしているので、安心して寮生活を送れます。家族もほっとしているようです。寮の前には大家さんの家があつて、入寮後には大家さんのお宅で食事会があつて、楽しいひとときを過ごしました。料理は家でも手伝っていたので

すが苦手です。最近料理の本を二冊ほど買いました。今勉強中です。自立した毎日、学生生活も楽しめ、とても満足しています。





## 部・サークル紹介



女子力  
向上  
サークル

総合文化学科2年 須坂東高校出身 **寺澤 愛佳さん**

上田女子短期大学では「女子力」という言葉をよく使います。女短の女子力って何だろう？それを追求するため、サークルを立ち上げました。月1回は料理に挑戦。最初は「肉じゃが」。アクセサリー作りにも力を入れています。



アンサンブル  
サークル

幼児教育学科1年 穂高商業高校出身 **安田 真利帆さん**

クラリネット大好きな5人が集まり、アンサンブルサークルを作りました。この学校はとて音楽が盛んで、保育士になるための勉強も、大好きな音楽もできて、毎日がとても充実しています。



バレー  
ボール部

幼児教育学科2年 穂高商業高校出身 **加々美 果穂さん**

大会に向け、毎週2回、練習をしています。バレーはチームプレーなので、みんなで力を合わせることが大切です。部員は学年・学科関係なくみんな仲間。大変な時に励まし合えるのもバレーの魅力です。



ダンス  
サークル

幼児教育学科2年 高田商業高校出身 **平野 奈津子さん**

メンバーは15人。経験者もいますが、ほとんどは初心者で、みんなダンスが大好きで集まってきた人たちばかりです。リズムに合わせてめいっぱい体を動かして踊ると、リフレッシュできます。



軽音  
サークル

幼児教育学科2年 丸子修学館高校出身 **白石 まど果さん**

軽音サークルは学海祭の発表に向けて活動しています。他にも去年は上田城のイベントで2回演奏の場を与えていただきました。経験者も初心者も大歓迎。他の学科の人との新たな出会いも魅力です。

## Open Campus Report

6月28日(土)「オープンキャンパス夏I」を開催しました。県内外を問わず、たくさんの方に参加していただきました。今回は通常プログラムに加え、両学科の模擬授業や音楽コースの学生によるヴォーカルコンサートなどの特別イベントも開催。夢と目標に向かって学ぶ大切な2年間を過ごす「上田女子短期大学」のキャンパスライフを紹介しました。



学長先生と♪



ランチ体験!



ようこそ!上田女子へ!!



みんなでピース!

## 学生スタッフ40名集合!!

オープンキャンパスのいろいろな場面で、学生スタッフが大活躍しました。おそろいの水色のポロシャツを着た学生スタッフの面々。日頃の学生生活を知ってもらうためにそれぞれ工夫をこらし、スタッフの役割を積極的にこなしていました。「キャンパスツアーを担当しました。ツアー後、楽しかったと言っていただけで、とても嬉しかったです。」と語る早川唯さん(幼児教育学科2年・

上田東高校出身)。テーブルコーディネートを担当した竹花紗希さん(総合文化学科2年・丸子修学館高校出身)は、「後輩が参加してくれたのは、うれしいですね。忙しいタイムスケジュールでしたが、スタッフとして頑張りました」と、二人とも充実した時間を過ごした様子でした。



# 進路サポート室情報

## 卒業生 だより

幼児教育学科 野沢南高校出身  
信学会幼稚園勤務  
池田 有美香さん



先生と呼ばれる責任感を  
感じています。

私は、就職してすぐに年少クラスの担任になりました。社会人としての生活にもまだ慣れていない中、子どもたちの先生として「しっかりしなくてはいけない」という責任感を感じながら過ごしています。

短大時代には「手遊び」など現場ですぐに活用できる保育技術を学び、現在の保育活動に役立っています。幼稚園では、活動の一つひとつに「学び」の要素があり、

子どもたちにその時々の課題を「できる」ようになってもらうことを目的に指導するのですが、どうしたら、子どもたちに伝わるかな？ できるようになるためには何が必要？ など指導法を考えることに教育の難しさを感じています。

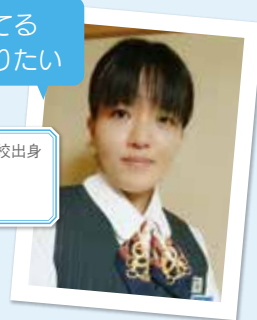
学生時代には、人と関わる仕事がしたいと考え、図書館司書とブライダル関連の科目を中心に学んでいました。特に、佐藤先生のコミュニケーションに関する授業は、大変面白く興味深い内容でした。信用金庫に就職したのも、外回りや窓口対応など様々なシーンで人との関わりが強そうだったからです。

働き始め、守秘義務などさまざまな責任

を一人ひとりが持って行動することの大変さを感じていますが、自分で選んだ道で働けることに大きな喜びを感じています。今後も、人の役に立てるような社会人になることを目標の一つに、頑張っていきます。

## 人の役に立てる 社会人になりたい

総合文化学科 上越総合技術高校出身  
新井信用金庫勤務  
上原良予さん



## 就活 レポート

実習を  
通じて初めて  
気づいたこと

内定  
しました



幼児教育学科2年  
篠ノ井高校出身  
太田 恵理子さん

私は、自分が幼稚園出身だったこともあり、幼稚園への就職を希望していました。ところが、保育園や施設の実習に行ってみると、そこでは得るものがそれぞれ違い、実習で訪れた児童養護施設に惹かれました。施設は子どもたちに笑顔で接すればいいというわけではなく、子どもの気持ちを汲み取り、その子のためにどうサポートしていけるか、という事が一番

大事であることを知りました。

自分が一番やりたかったことはそれではないかと、その実習で初めて気づくことができたのです。これからは施設も就職活動に加え、やれるだけのことはやってみようと思っています。

私が就職活動を始めたのは1年の3月からでした。今は事務職を中心に就職試験を受けています。事務職に就くのであれば、エクセルは必要と先生方にアドバイスをいただき、MOSの資格も取得しました。進路セミナーでは「面接の仕方」「履歴書の書き方」から始めて、女性としての立ち居ふるまいや身だしなみまできちんと指導していただけます。授業内

で就職活動について学ぶことができ、とても力になっていると感じていました。

また、先生方はいろいろと力を貸してくださり、大変だなと思うときでも不安はあまり感じませんでした。先生方のサポートを受けながら、厳しい就職活動を頑張って乗り切っていきたいと思います！

内定  
しました



先生の  
サポートに感謝

総合文化学科2年生  
丸子修学館高校出身  
吉池 桃子さん

## 編集後記

梅雨が明け、夏の暑さとともに短大の前期が終わります。1年生は短大生活に慣れて、少しずつ自分の時間が持てるようになってきているようです。2年生は就職活動が本格化してきています。悩んで迷ったりしても、はしゃいで楽しんで学生生活は2年間です。一歩ずつ、たまには一息つきながら、進んでいきましょう。(市東)



学校法人 北野学園

# 上田女子短期大学

幼児教育学科 / 総合文化学科

〒386-1214 長野県上田市下之郷乙260 TEL0268-38-2352代 FAX0268-38-7315 E-mail adoffice@uedawjc.ac.jp  
入試テレフォンサービス 0120-375901 <http://www.uedawjc.ac.jp>



表紙撮影：  
幼児教育学科2年  
関田光夏さん